

地域医療連携だより

H27.1
第33号



兵庫医科大学病院

〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号
TEL.0798-45-6111(大代表)
<http://www.hosp.hyo-med.ac.jp>



地域医療機関の先生方へ：新年のご挨拶

地域医療の連携で地域に最良の医療サービスを

地域医療・総合相談センター長 西 信 一



新年あけましておめでとうございます。

昨年4月より地域医療・総合相談センター長を拝命し幾つかのイベントに携わらせていただきました。まったく専門外であり、初めてのことも多く先生方にはご迷惑をおかけしたかもしれません。ようやく地域医療の実態にも慣れてまいりました。今後も地域の基幹病院として兵庫医大病院が機能するよう、先生方との間の潤滑油になればと考えておりますので、至らぬところをご寛容下さいますようお願い申し上げます。

具体的には幾つかの場で当院における返書管理の不備をご指摘いただきました。確かにご紹介をいただきながらうまく患者さんの情報を返せていない現状がわかりました。当院医師の認識を醸成することから始めて、カルテシステムなども修正していくように鋭意努力いたしております。

また、「顔の見える関係づくり」を標榜してまいりましたが、まだまだそういった関係ができていないと思います。さらにこういった関係を深めるとともに、ITを活用した情報ネットワークシステムも積極的に取り入れていきたいと考えています。

この8ヶ月でわかったことは、一口に「連携の強化」と謳うことは簡単であります、「どんな連携を深めるのか?」、「いかにして連携を深めるのか?」といったことは非常に難しいということでもあります。特に最近はチーム医療がキーワードになってきており、一人のスーパードクターだけで問題を解決することは困難であります。このために様々な立場、職種の間が「連携」することで初めてより良い結果を患者さんに還元することができます。

今年も皆様方と連携を深めることで地域医療に貢献できますことを念頭にして様々な活動を行いたいと考えております。先生方のお力添えを頂戴して地域の患者さんに最良の医療サービスが提供できますように努力する所存であります。ご協力賜りますようお願い申し上げます。また、先生方のますますのご発展を祈念いたしております。

開催報告：第5回 阪神病病連携実務者連絡会



医療社会福祉部 ソーシャルワーカー 金尾 久美

平成26年11月15日(土)15時から、西宮市大学交流センターにおいて阪神病病連携実務者連絡会を開催しました。同連絡会は、地域の医療機関の連携担当者が実務における意見交換を行い交流を深めることで、より円滑に連携を図ることを目的として6年前から開催しています。今回は、当院で平成25年4月に開設した急性医療総合センターの救命救急センター、平成26年6月に開設したSCU(Stroke Care Unit)での退院調整の現状について、当院の連携担当者から話題提供を行いました。懇親会では、和やかな雰囲気の中ご歓談頂き、各々の医療機関の状況等の意見交換を行いました。

当日は、23施設37名の連携担当の看護師、ソーシャルワーカーの方々の参加がありました。多数のご参加、誠に有難うございました。感謝をもちまして、ご報告申し上げます。



話題提供

1 当院における退院調整の状況 ～ SCUでの取り組みを中心に～ ソーシャルワーカー 木村 亜紀子

退院支援部門となっている地域医療・総合相談センターの紹介、当院での転院調整の流れの説明や実績報告をしました。また、SCUの退院調整で取り組んでいることなどの実践報告を行い、退院調整を早めるための課題についても提示しました。



2 救命救急センターでの転院調整の現状

ソーシャルワーカー 有沢 玲奈

救命救急センターの紹介、搬送後から転院までの流れ、救命救急センターでの転院調整の現状について、とくに人工呼吸器装着患者を中心に実践報告をしました。

当院における転院調整の現状について

当院では、医師から地域の医療機関の先生方へ直接転院の依頼をさせて頂くことも多々ありますが、地域医療・総合相談センターの退院調整看護師とソーシャルワーカーが主に転院調整を担っています。救命救急センターやSCU以外にも、整形外科や泌尿器科、上部消化管外科など一部の診療科は担当制にしており、それ以外は医療依存度の高い患者さんについては主に看護師が担当し、医療費や家族関係など療養上の課題がある場合にはソーシャルワーカーが中心に調整を行なっております。脳神経外科、救命救急センター、整形外科の件数が多く、現在転院全件数の7～8割を地域医療・総合相談センターで調整している状況です。転院の依頼内容としましては、治療の継続、リハビリテーション、緩和ケア、難病等の療養など多岐にわたります。現状の課題としましては、各医療機関のもつ機能との兼ね合いや転院を依頼するタイミング、情報提供の仕方などがあげられます。

また最近では、泌尿器科、上部消化管外科、下部消化管外科、整形外科病棟において、退院時に支援を要する可能性の高い患者さんのスクリーニングをしており、早期介入につながっています。

今後さらに、地域の医療機関の先生方、連携担当者の方々と、顔の見える関係や良好な協力体制を築き、スムーズな連携により患者さんが安心して医療を受けられるよう努めて参りたいと存じます。今後とも、何卒よろしくお願い申し上げます。

開催報告：兵庫医科大学病院と芦屋市医師会との合同講演会

病院事務部 地域医療課長 春 木 敏 弘

平成 26 年 10 月 18 日（土）午後 3 時から、芦屋市医師会医療センターにおいて芦屋市医師会と当院との共催による講演会を開催いたしました。はじめに、当院地域医療・総合相談センター長 西 信一、芦屋市医師会・高会長にご挨拶を頂き、「兵庫医科大学と芦屋をつなぐ救急医療と病診連携、専門医療について語る」を主題として、特別講演、パネルディスカッション、意見交換会の 3 部構成で開催しました。講演会には芦屋市医師会、芦屋市の医療機関 25 施設、38 名のご出席と当院 9 名を加えた計 47 名が出席、盛会のうちに開催することができました。会場のご提供ならびに合同講演会開催にご尽力賜りました芦屋市医師会様のご厚情に深謝し、ここにご報告申し上げます。

演題「兵庫医科大学と芦屋をつなぐ救急医療と病診連携、専門医療について語る」

I 部 特別講演

本学脳神経外科学講座主任教授・脳卒中センター長 吉村紳一から「脳卒中の最新治療と予防のコツについて」をテーマに、脳卒中にならないコツ、当院における手術、最新の治療法等について講演しました。



II 部 パネルディスカッション

『救急医療と病診連携』をテーマに、芦屋市医師会・安住理事（安住クリニック院長）より「病診連携における 1 次救急の位置付けについて」、市立芦屋病院診療局長・竹田消化器内科部長より「市立芦屋病院の 2 次救急の取組みについて」、本学救急・災害医学講座主任教授・救命救急センター長 小谷穰治より「兵庫医科大学救命救急センターにおける 3 次救急」、本学医療情報学主任教授・情報センター長 宮本正喜から、阪神医療福祉情報ネットワークシステム「h-Anshin むこねっと」について、各人の立場から救急医療、病診連携、診療情報等の共有についての講演、その後、パネルディスカッションで①救急医療の現状と問題点、②当院の救急患者受け入れ態勢、③「h-Anshin むこねっと」を用いた患者情報の共有と有効活用について、④各医療機関との人的ネットワーク構築の重要性について討議されました。



意見交換会

講演会終了後の意見交換会にも多数のご出席を頂きました。当院情報センター長から挨拶、乾杯の発声を行い、和やかな雰囲気の中、ご歓談いただきました。ご出席頂きました皆様方から、今回の合同講演会で、「顔の見える関係が構築できた」との嬉しいご感想を多数頂きました。



地域医療機関の先生方へ：

地域医療機関（クリニック）を訪問して

病院事務部 地域医療課 主事 山 口 力

地域医療・総合相談センターでは、平成 26 年 9 月より営業チームを新規に発足し、渉外活動を開始しております。主な活動内容としましては、病院の広報をはじめ、地域医療機関・医師会との連携強化による紹介・逆紹介率の向上や、各医療機関様からのご要望に対するフォローを行っております。具体的には、各地域の医療機関様を直接訪問し、当院の診療のご案内や、患者紹介、後方支援のお願い等をさせて頂いております。また、訪問時に頂いた診療および予約等に関する質問・ご要望については、各診療科に確認後、回答をさせて頂いております。

まだ、営業チームを発足して僅かですが、既に今年度開設された医療機関様 30 軒近くを訪問させて頂いております。先生方には、診療のお忙しいところ快く時間をとって頂き、大変感謝しております。これから訪問させて頂く医療機関様含め、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

診療科紹介

小児科

小児科 診療部長 竹島 泰弘



■ 特色

兵庫医科大学病院小児科は、小児一般病棟23床、新生児病棟(NICU、GCU)33床を有し、高度救命医療・先進医療から急性感染症などのcommon diseaseまで、地域の小児・新生児医療の中核として広く小児医療の診療にあたっています。小児一般病棟では小児外科や集中治療部、その他の診療科とも連携を密にしながら、多岐にわたる疾患を診療するとともに、長期入院のこども達のために、小学校・中学校の院内学級を設置、勉強しながら治療に専念できる環境を整備しています。NICUでは、超低出生体重児や呼吸障害、重症仮死などを有した新生児の集中治療を行なっています。NICUを含む周産期センターには妊婦の集中治療室であるMFICU(母体胎児集中治療室)6床もあり、阪神一円から合併症妊娠や、切迫早産など高いリスクを伴う母体や、低出生体重児などのハイリスク児が集まる周産期医療の基幹施設となっています。

■ 診療実績

専門外来として、神経・筋疾患、腎疾患、血液・腫瘍性疾患、代謝・内分泌疾患、アレルギー疾患、乳児健診等の診療を行っています。そして、筋ジストロフィーに対する医師主導治験を行うなど、筋疾患に対する新たな治療法の開発を行うとともに、骨髄移植、腎移植、先天代謝異常症の診断・治療、超低出生体重児の管理などの高度医療を実践し、苦しむこども達の救命に取り組んでいます。

■ スタッフ紹介

役職	医師名	専門分野	役職	医師名	専門分野
主任教授/診療部長	竹島 泰弘	小児科一般、筋、内分泌、代謝	助教	小川 智美	小児科一般、新生児、乳児発達
教授/診療副部長	服部 益治	小児科一般、腎、夜尿症、膠原病、川崎病	助教	前川 講平	小児科一般、腎、透析
			助教	柴田 暁男	小児科一般、新生児
講師	大塚 欣敏	小児科一般、血液、腫瘍、血友病	助教	樋上 敦紀	小児科一般、新生児
助教	皆川 京子	小児科一般、新生児、神経・発達、在宅	助教/外来医長	下村 英毅	小児科一般、神経・筋、頭痛
			助教	柴野 貴之	小児科一般、腎、透析
助教/医局長	福田 典子	小児科一般、アレルギー	助教	李 知子	小児科一般、筋、代謝、内分泌
助教/病棟医長	田中 靖彦	小児科一般、内分泌・代謝	助教	三崎真生子	小児科一般、新生児

■ 地域医療機関の先生方へ

H25年に開設された急性医療総合センター内に周産期医療センターが新設されたことに続き、H27年春には小児一般病棟をリニューアルする予定です。当科スタッフの専門領域はもちろん、それ以外の小児疾患であっても入院・外来依頼など、いつでもお気軽にお声をかけてください。



病棟/部門紹介

新健診センター設置準備室

新健診センター設置準備室 課長 北出 篤



準備室は平成25年8月に設置され、平成27年4月の健康医学クリニック開設に向けて準備を進めています。現在は建設工事の進捗状況を確認しながら、兵庫医科大学病院内の各部署との調整、医療機器や必要備品の調達、健診システムの導入など、院内外の広報活動と並行しながら業務を進めています。すでに人間ドック健診の予約も受付けており、健診者の方々には真心のこもった「限られた空間で無限のおもてなし」ができるよう日々努力して、業務に取り組んでいます。

人間ドック申し込み・お問い合わせフリーダイヤル ☎0120-682-701(直通)
詳細はホームページをご覧ください。http://www.hyo-med-kenshin.com/

